

血中成長ホルモン測定値のキット間差への対応について

血中成長ホルモンの測定値の測定キット間差については、従来、補正式により対応していましたが、2005年に成長科学協会の主導により標準品を共通のリコンビナント成長ホルモンに統一することにより解決されてきました。しかし、最近、再び同様の問題が明らかになってきました。平成24年度厚生労働省難治性疾患克服研究事業間脳下垂体機能障害に関する調査研究班において、測定キット間の測定値の比較検討が行われ、成長ホルモン分泌不全性低身症と成人成長ホルモン分泌不全の診断の手引きの改定、および、各キット間の測定値の関係式が報告されました。新しい診断の手引きにおいては、成長ホルモン値は、成長科学協会のキット毎の補正式で補正して判定することとされます。

そのため、

- 成長科学協会では、測定値をキット毎に補正した上で成長ホルモン治療適応判定を行います。
- この対応は、平成25年3月15日以降に施行された成長ホルモン分泌刺激試験等における採血検体を対象として実施する予定です。
- 補正の方法の詳細については、3月上旬に発表いたします。

なお、小児慢性特定疾患治療研究事業における成長ホルモン分泌刺激試験の成長ホルモン測定値の取り扱いについても、一致した対応が取られるように当局と協議中です。

平成25年2月18日

(公財) 成長科学協会 理事長 田中敏章
GH・関連因子検討専門委員長 島津 章